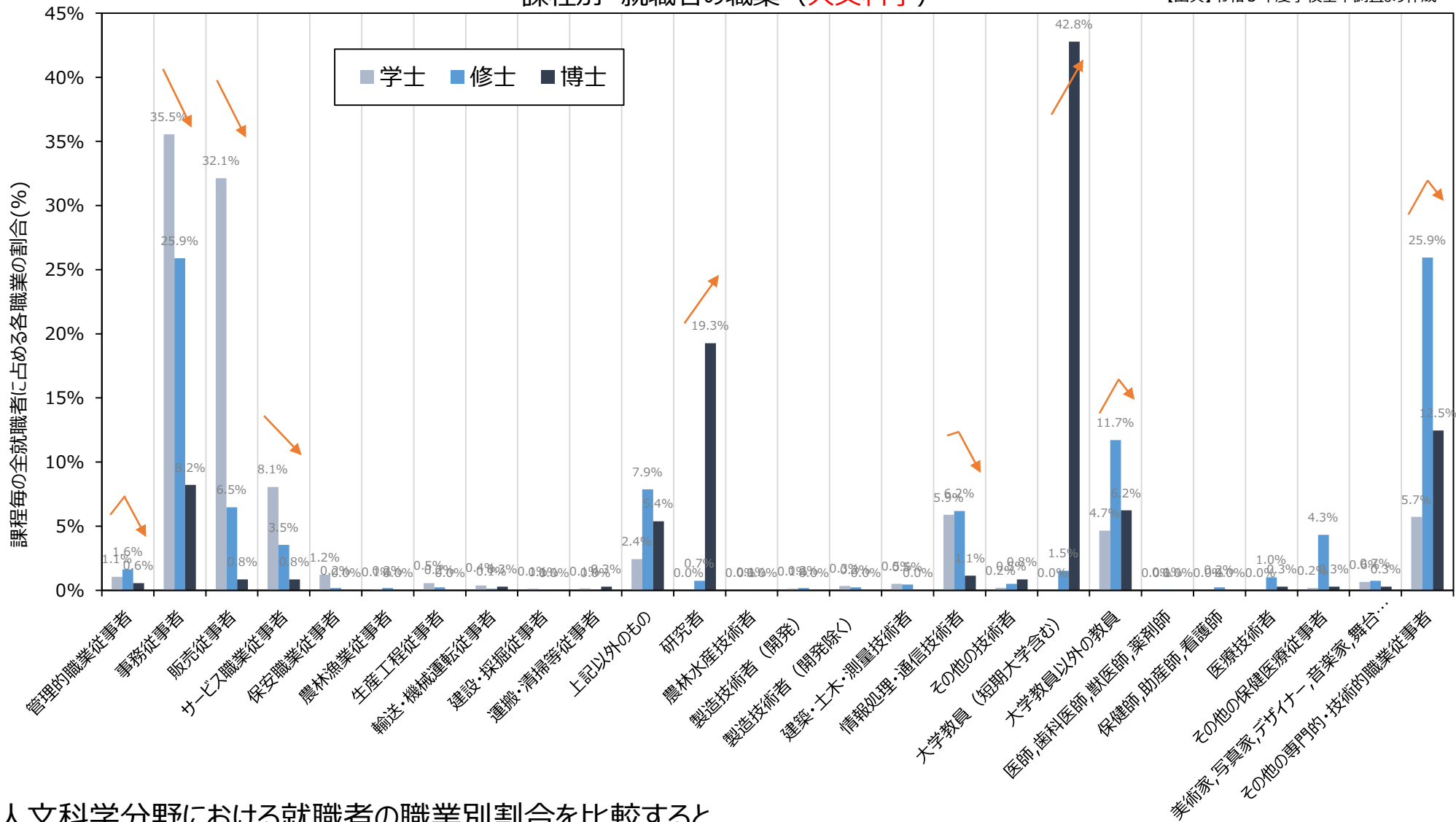


課程・分野ごとの就職先の割合（令和3年度）

課程別 就職者の職業（人文科学）

【出典】令和3年度学校基本調査より作成



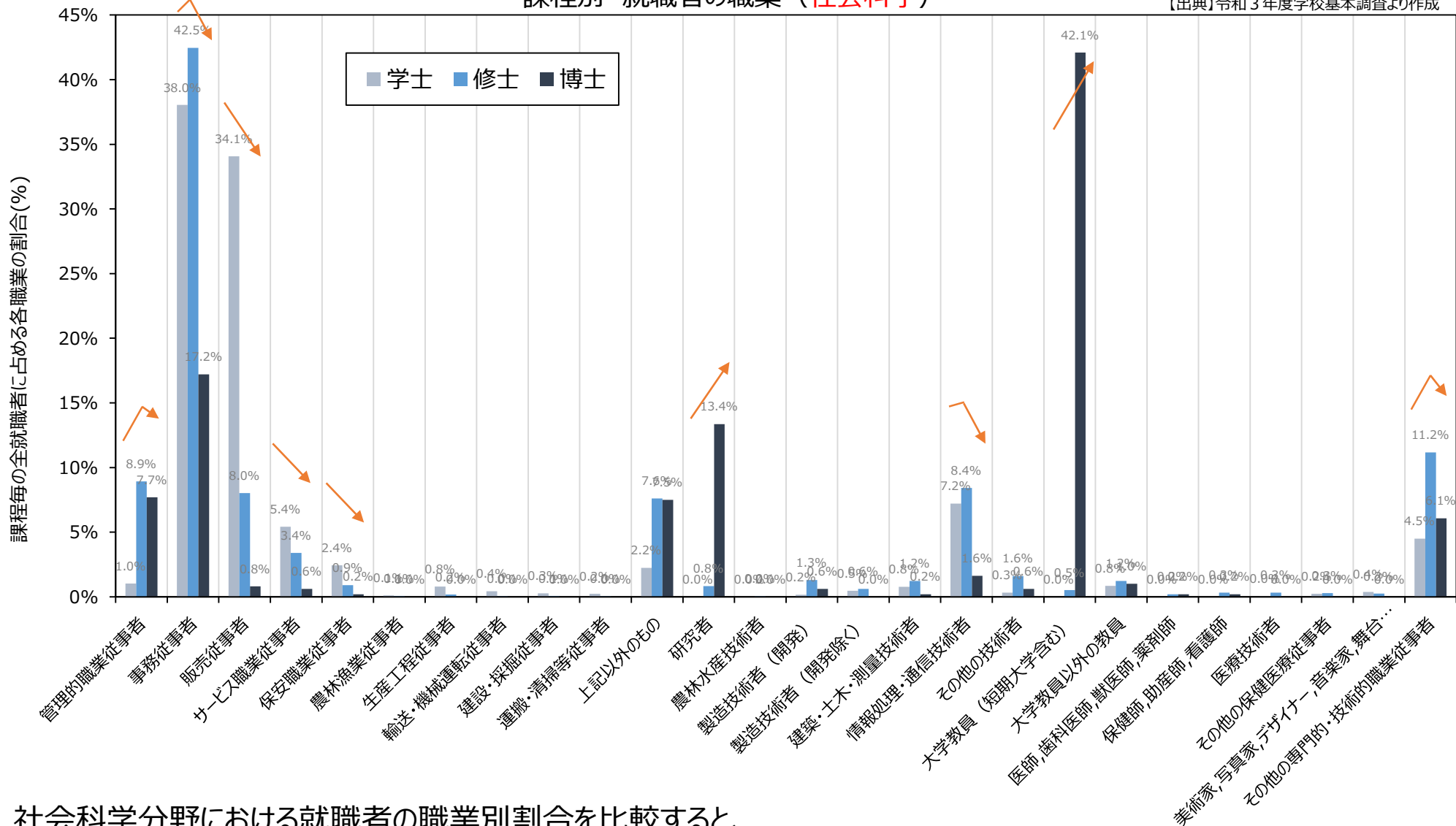
人文科学分野における就職者の職業別割合を比較すると、

- 博士卒において優勢な大学教員への就職に比べて、大学以外の教員への就職は修士卒が高い。
- 事務従事者や販売従事者、サービス職業従事者への就職割合は、学部卒から修士卒、博士卒になるに連れて減少。

課程・分野ごとの就職先の割合（令和3年度）

課程別 就職者の職業（社会科学）

【出典】令和3年度学校基本調査より作成



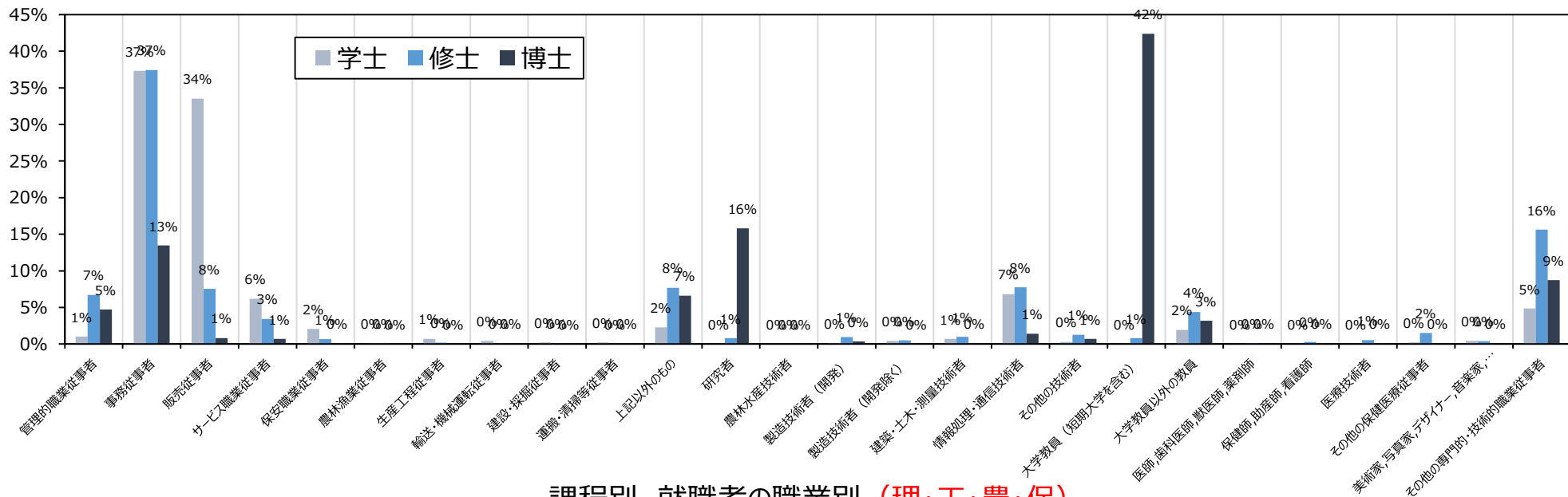
社会科学分野における就職者の職業別割合を比較すると、

- 学部卒に比べて院卒の管理的職業従事者への就職割合が大きく増加。
- 販売従事者やサービス従事者、保安職業従事者等への就職割合は院卒になると減少。
- 事務従事者や情報処理・通信技術者への就職割合は、学部卒・修士卒に比べて、博士卒になると大きく減少。 38

(参考) 課程・分野ごとの就職先の割合 (令和3年度)

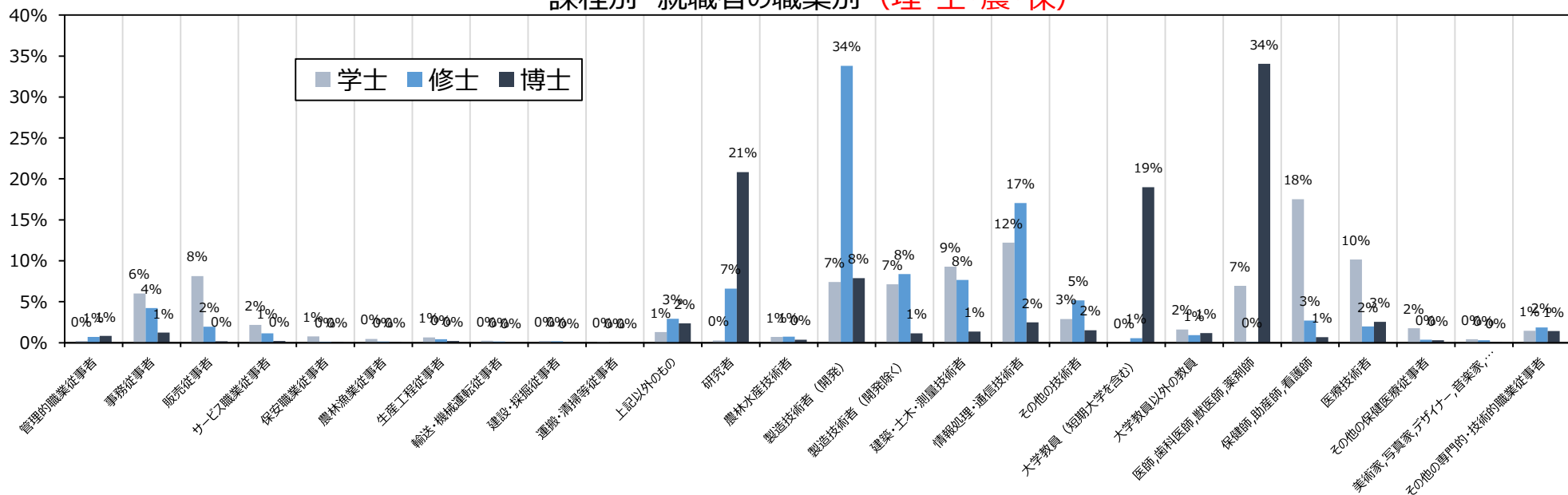
課程別 就職者の職業 (人・社)

課程毎の全就職者に占める各職業の割合(%)



課程別 就職者の職業別 (理・工・農・保)

課程毎の全就職者に占める各職業の割合(%)

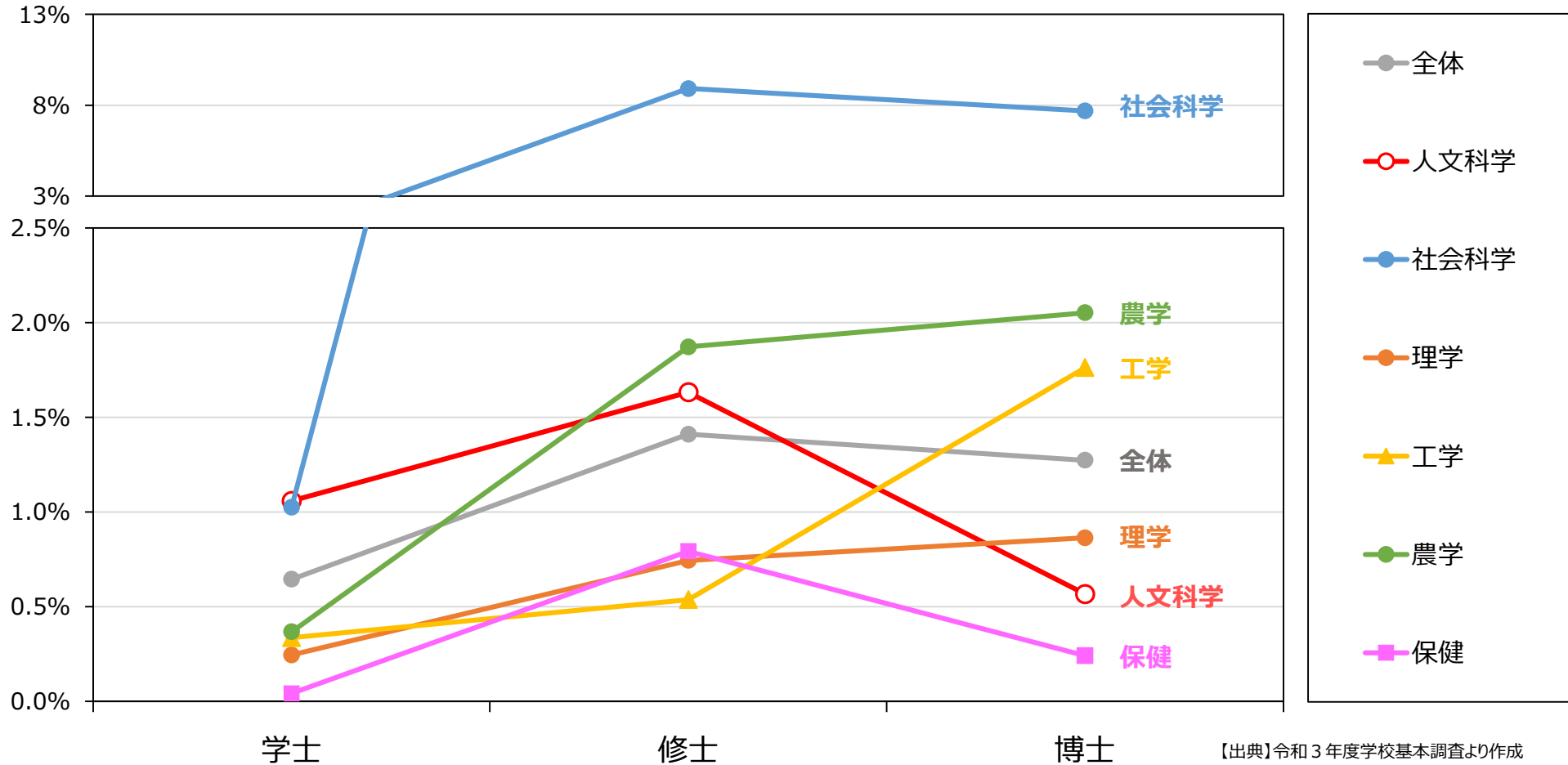


就職者に占める管理的職業従事者の割合（令和3年度）

管理的職業従事者

事業経営方針の決定・経営方針に基づく執行計画の樹立・作業の監督・統制など、経営体の全般又は課（課相当を含む）以上の内部組織の経営・管理に従事するもの。公務員、議員、法人・団体役員、法人・団体管理職員等。

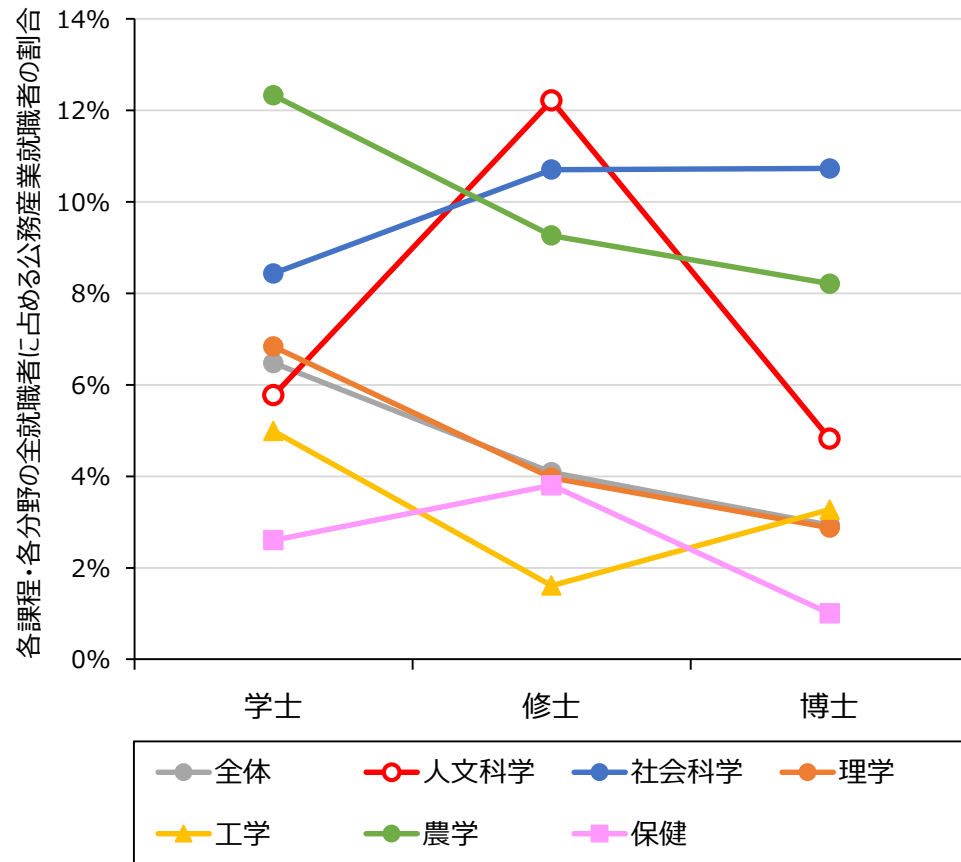
各課程・各分野の全就職者に占める管理的職業従事者の割合(%)



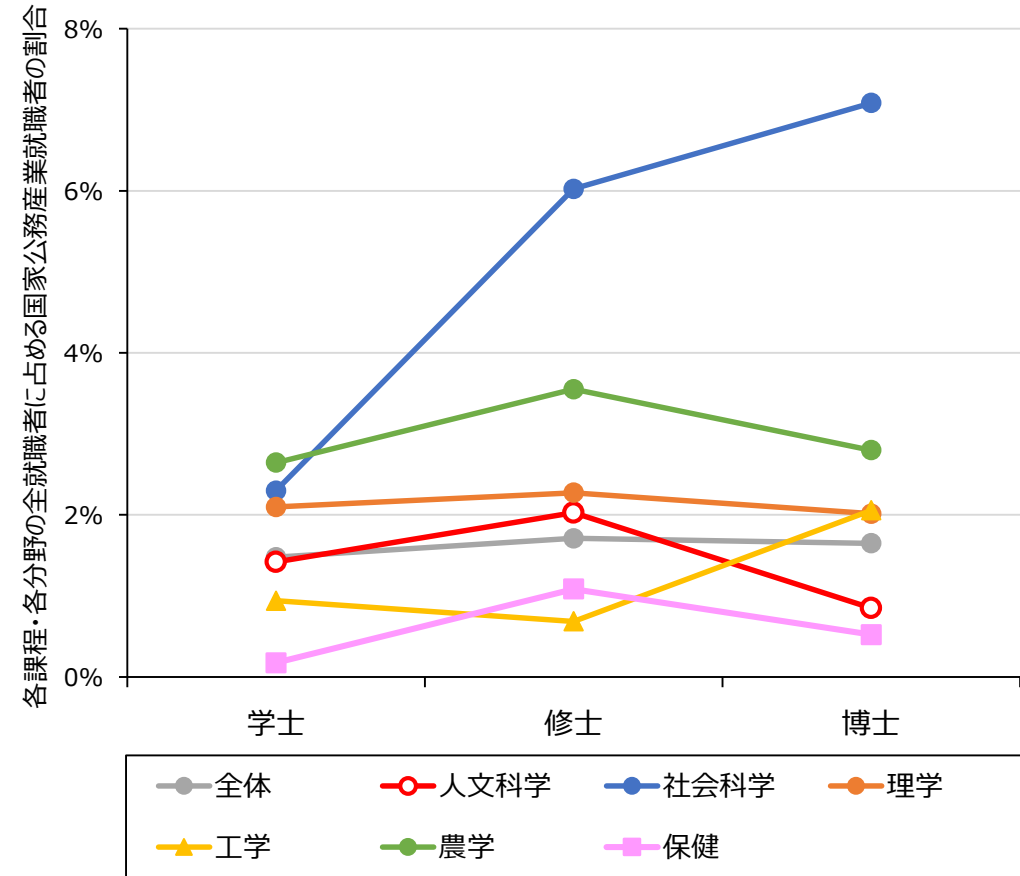
- 社会科学分野は社会科学分野の修士卒・博士卒就職者に占める管理的職業従事者割合が他の分野に比して高い
- 理学、工学、農学分野では、課程が上がるにつれて同分野の就職者に占める管理的職業従事者割合が増加（学士＜修士＜博士）
- 社会科学（及び保健）分野では修士卒での割合が最も高く、続いて博士卒となり、学士卒が最も低い（学士＜博士＜修士）
- 人文科学分野でも修士卒での割合が最も高いが、学士卒よりも博士卒での割合が低い（博士＜学士＜修士）
- 他分野と比べ、人文科学分野での博士卒就職者に占める管理的職業従事者割合は低い（医者等への就職が多い保健分野を除く）

就職者に占める公務産業（国家公務・地方公務）の割合（令和3年度）

公務産業（国家公務・地方公務）



国家公務のみ



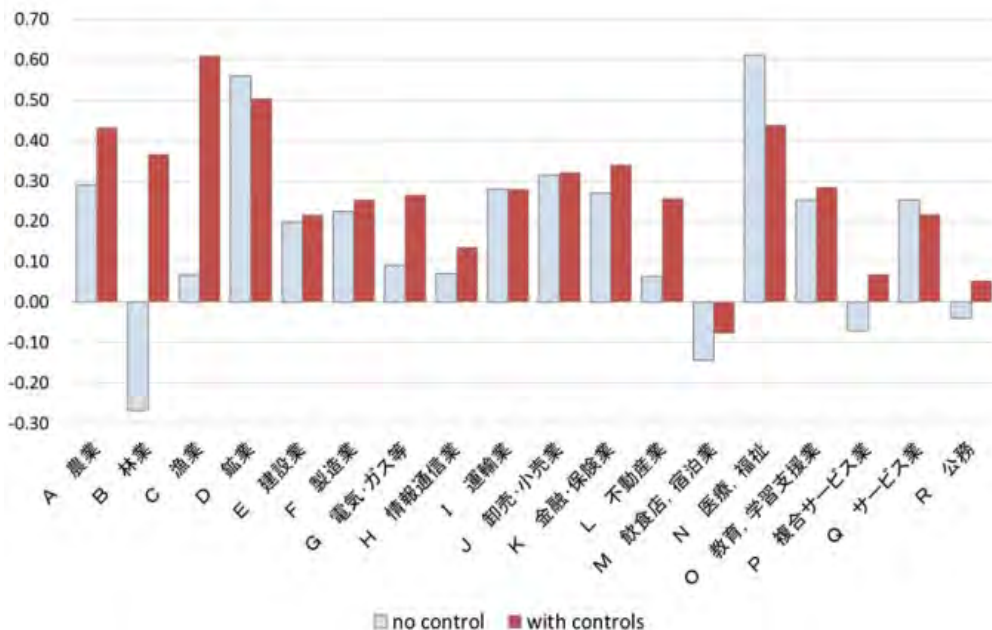
【出典】令和3年度学校基本調査より作成

- 全分野で見ると、大学院への進学により就職者全体に占める公務産業への就職割合は低下するが、国家公務は横ばい（国家公務よりも地方公務での大学院卒人材の就職割合が低い）。
- 社会科学分野では、課程が上がるにつれて同分野内での公務産業への就職割合が増加する傾向（特に国家公務）。
- 人文科学分野では、修士卒において公務産業（特に地方公務）への就職割合が高く、博士卒において最も低い。
- 理学・農学分野では、大学院進学によって公務産業への就職割合が減少。国家公務においては横ばい。
- 工学分野では、修士卒よりも博士卒分野での公務産業就職割合が高く、唯一V字を描いている。

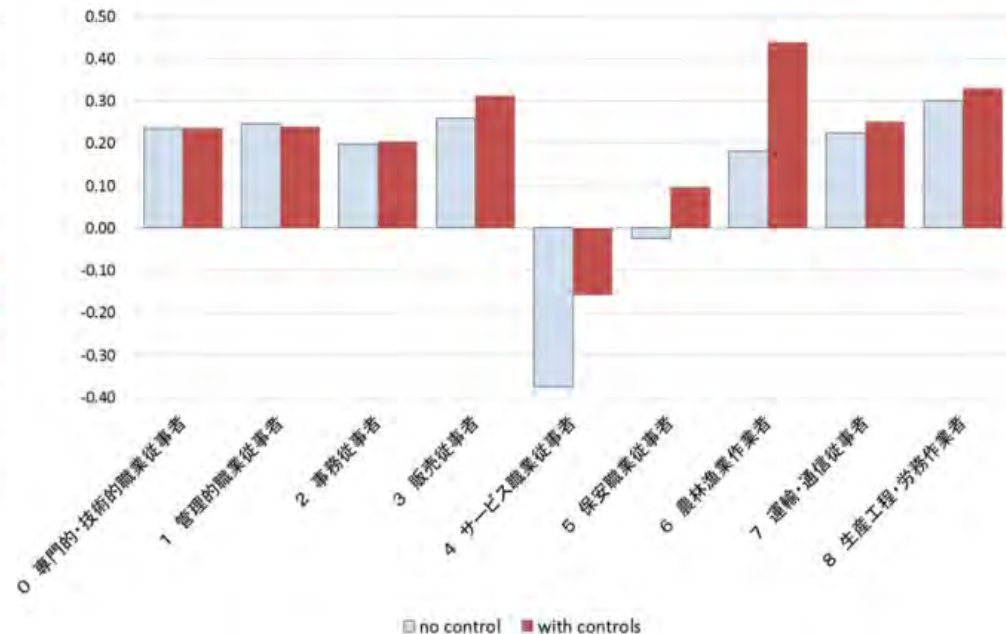
産業・職業分類別の賃金プレミアムの推計

- ほとんどの産業・職業において、学部卒に対する20～30%程度の大学院の賃金プレミアムが確認されている。
- 他方、産業分類別の飲食店・宿泊業、職業分類別のサービス職業従事者においてはマイナスの効果が見られる。
- 職業分類別の管理的職業従事者では20%強の賃金プレミアムが確認されるが、産業分類別の公務における賃金プレミアムはわずか。

産業分類別の大学院賃金プレミアム（対学部卒）



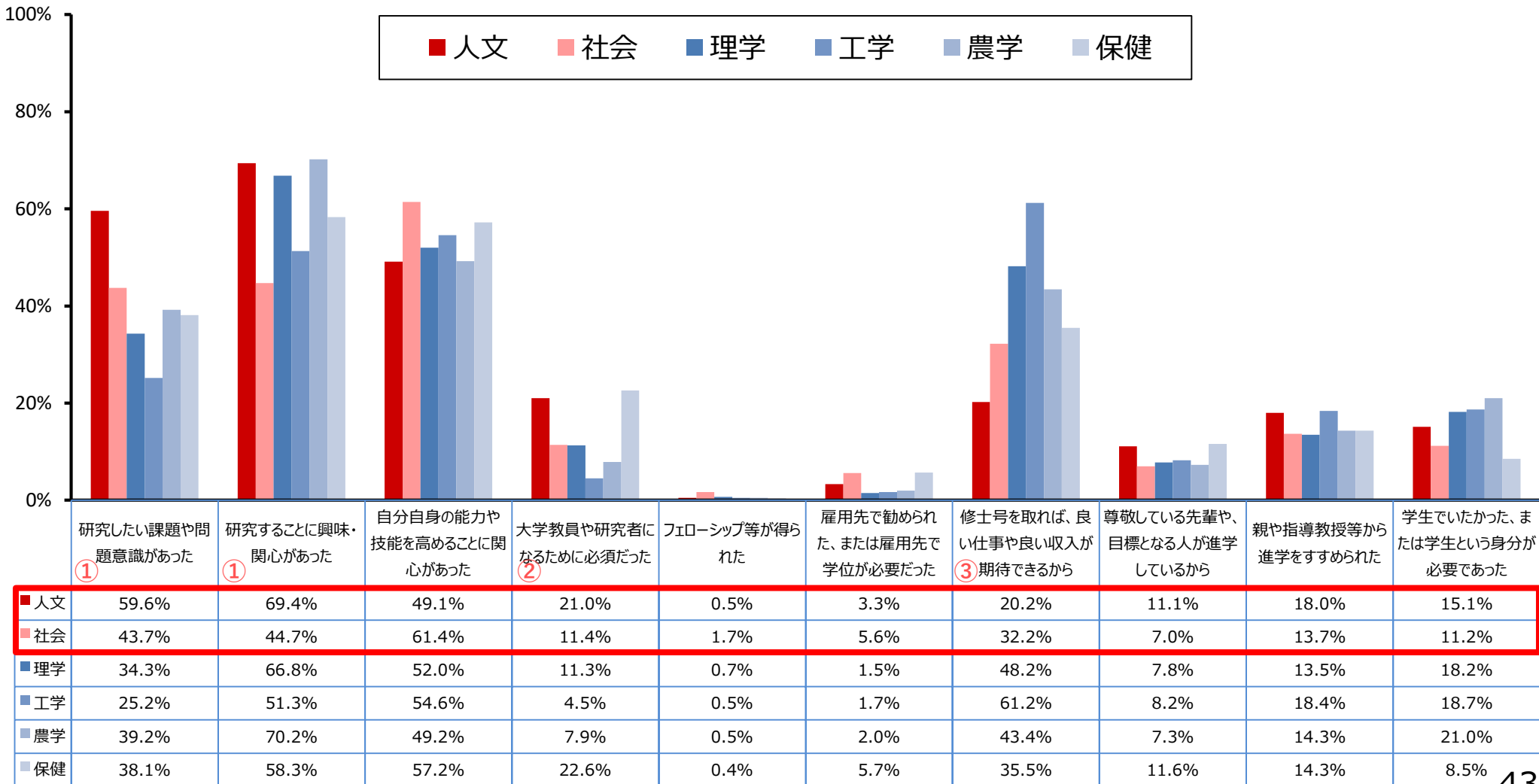
職業分類別の大学院賃金プレミアム（対学部卒）



注) “no control”は、単純な大学院と大卒の対数賃金格差。“with controls”は、性別、学歴、年齢、勤続年数及びその二乗、週労働時間を説明変数とした賃金関数の推計結果により、大卒者を参照基準とした大学院卒ダミーの係数を表示

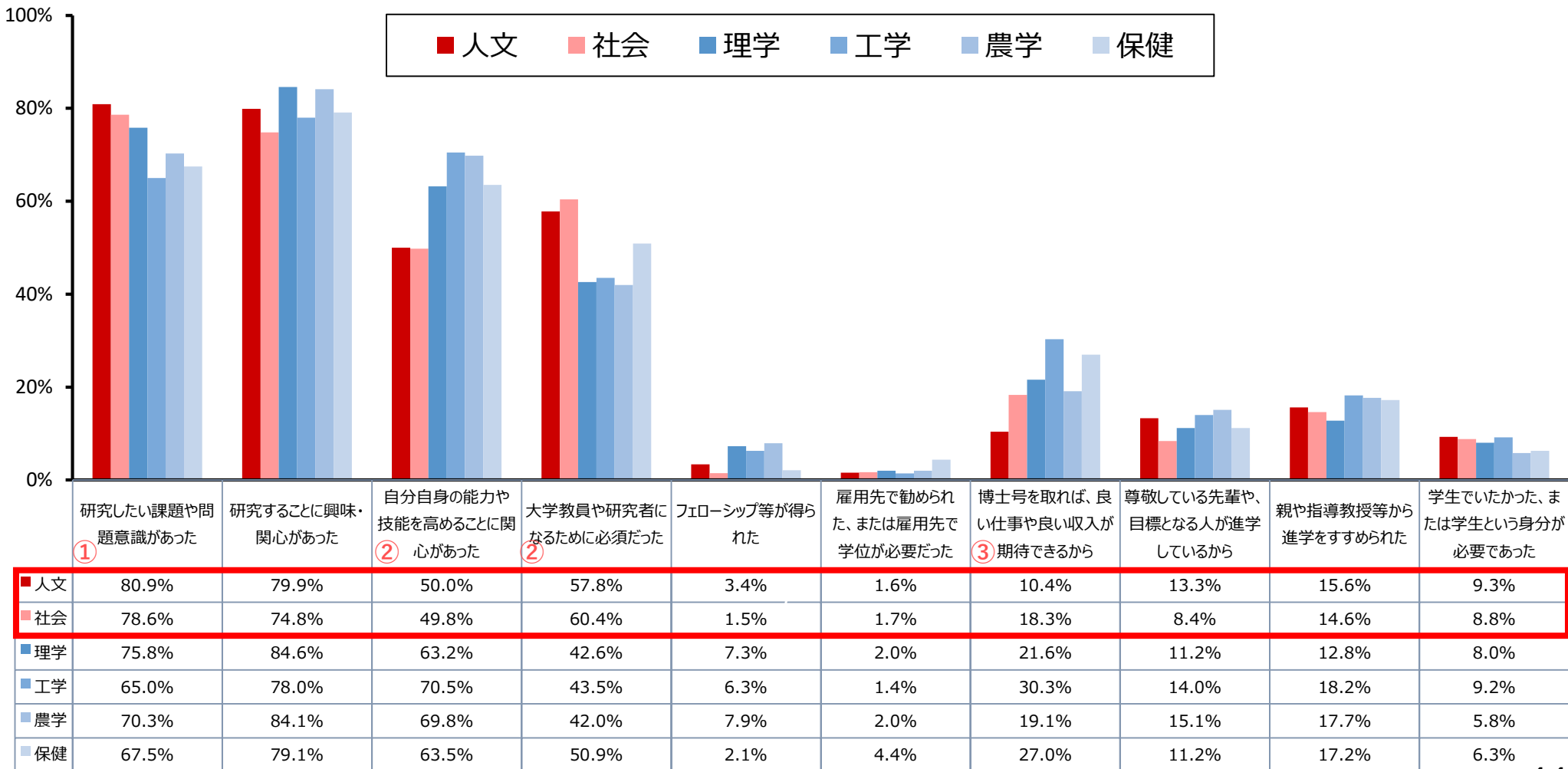
修士課程への進学理由

- ① 人文科学系は社会科学系よりも研究そのものに対する関心が高く、理工農系よりも特定の課題や問題意識に照らして進学行動を取る割合が高い(専門分野へのこだわりが強い?)
- ② 人文科学系では大学教員を志向して進学する割合が高い(医者のキャリアパスが想定される保健を除く)
- ③ 人文科学・社会科学系ともに良い仕事や良い収入のインセンティブは高くないが、人文科学系では特に低い



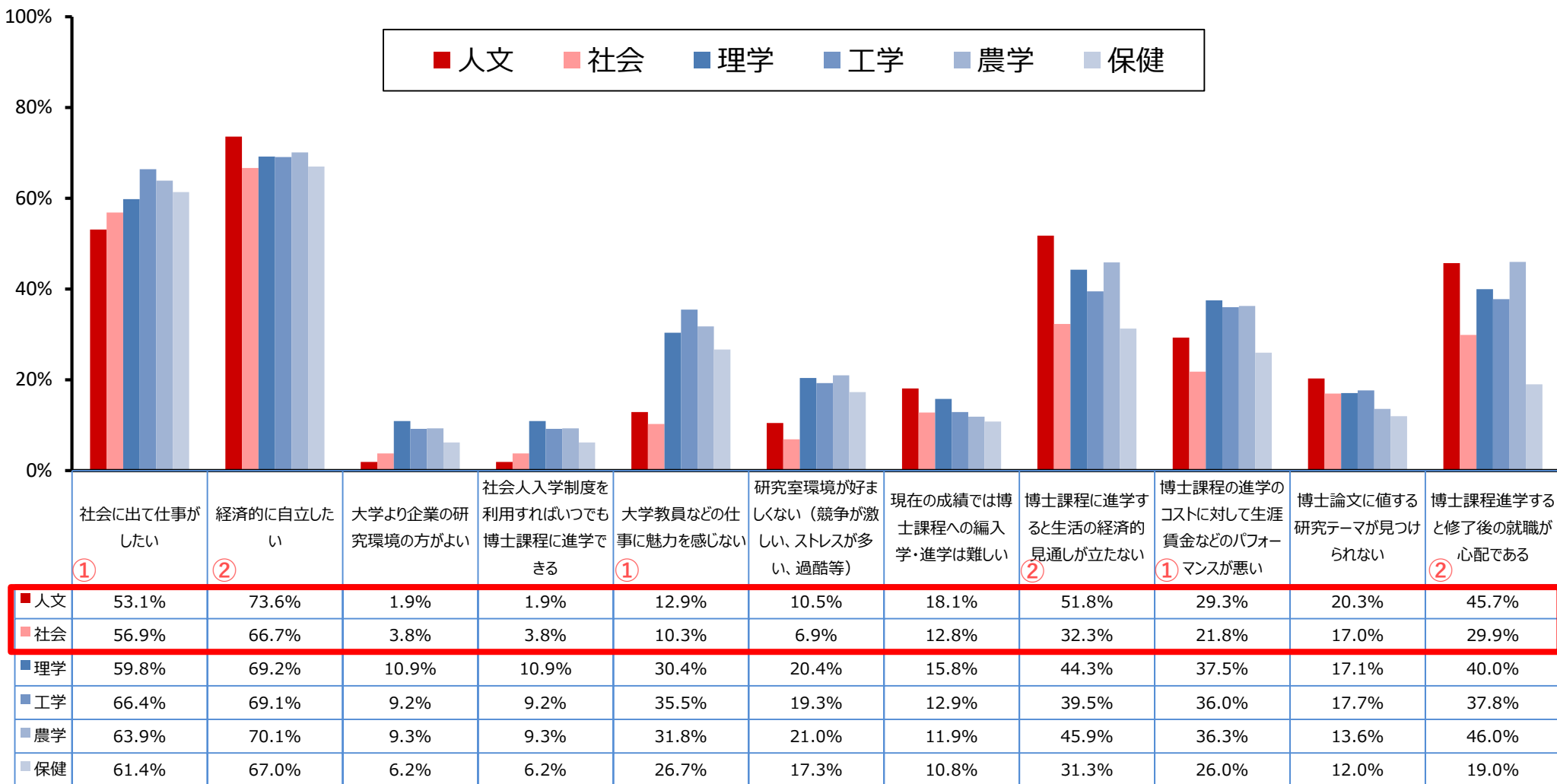
博士課程への進学理由

- ① 修士課程進学とは異なり、博士課程進学では人文科学系に加えて社会科学系も特定の課題や問題意識に照らして進学行動を取る割合が高い
- ② 一方、人文科学・社会科学系の博士進学理由では、自らの能力や技能を高めること(自己啓発)への関心が弱く、大学教員・研究者を強く意識したものとなっている
- ③ 修士と同様、人文科学・社会科学系ともに良い仕事や収入のインセンティブは高くないが、人文科学系では特に低い



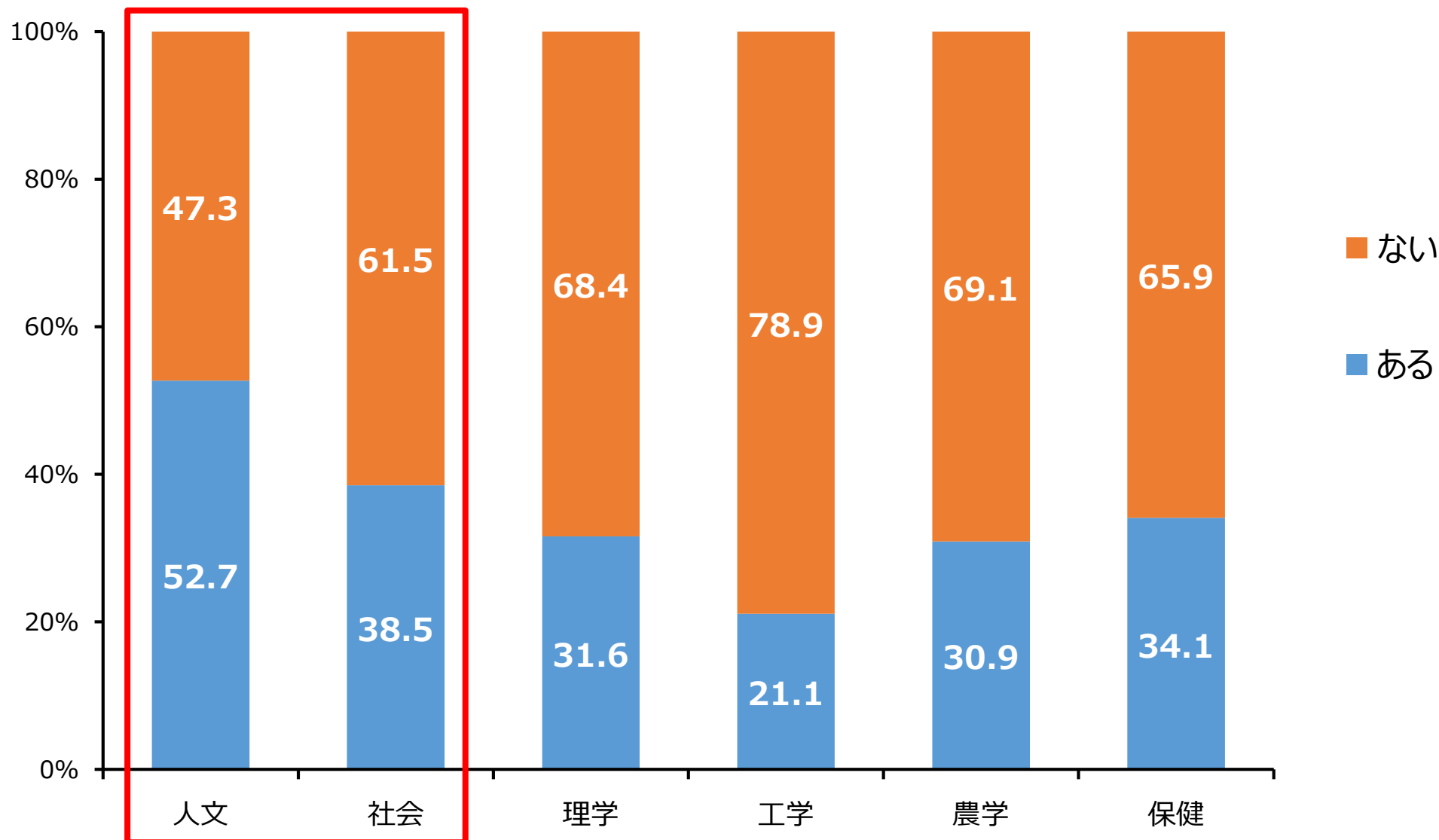
博士課程進学ではなく就職を選択した理由

- ① 人文科学・社会科学系では「社会に出て仕事がしたい」や「生涯賃金のパフォーマンスが悪い」、「大学教員などの仕事に魅力を感じない」を選んだ者が少ない(＝就職者であっても、修士課程修了者のアカデミア志向が強い)
- ② 人文科学系は社会科学系よりも「経済的な自立」や「生活の経済的見通しが立たない」を選ぶ者が多く、「修了後の就職が心配である」を選ぶ者も多い



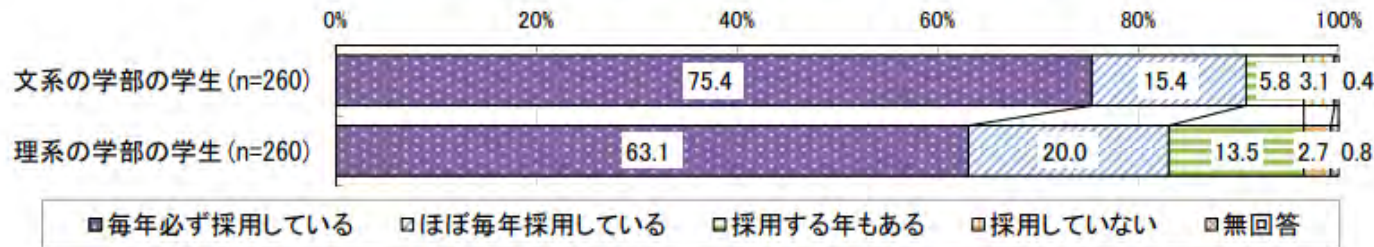
就職予定者の博士課程へ進学検討の有無

- 人文科学・社会科学系の修士卒求職者は、他の分野に比べて博士課程への進学を検討した割合が高い



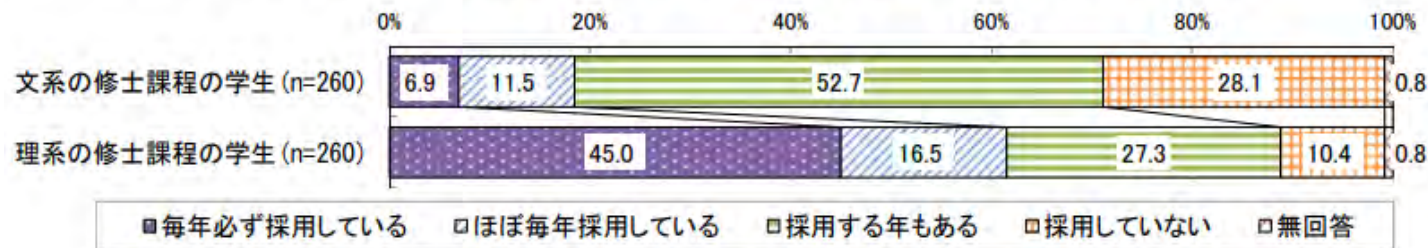
企業における大学院修了者の採用状況

図表 47 過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・学卒者



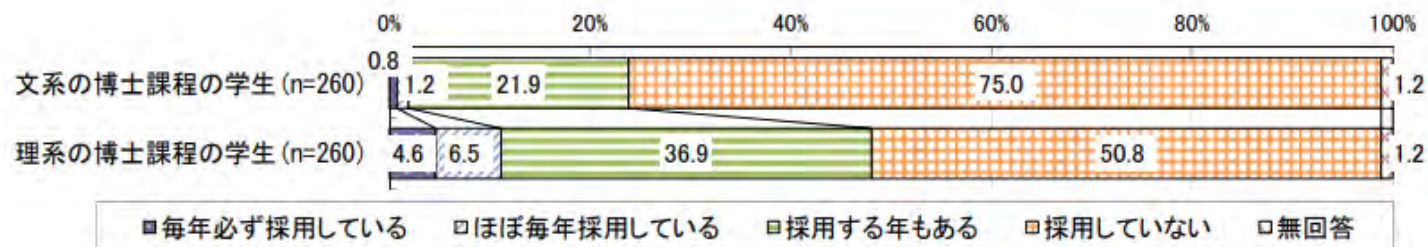
- 文系の学部の学生については 75.4%、理系の学部の学生については63.1%の企業が「毎年必ず採用している」と回答している。

図表 48 過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・修士課程修了者



- 対して、文系の修士課程の学生について毎年必ず採用しているのは6.9%、理系の修士課程の学生については45%となっている。

図表 49 過去 5 年間の新規卒業者の採用状況・博士課程修了者



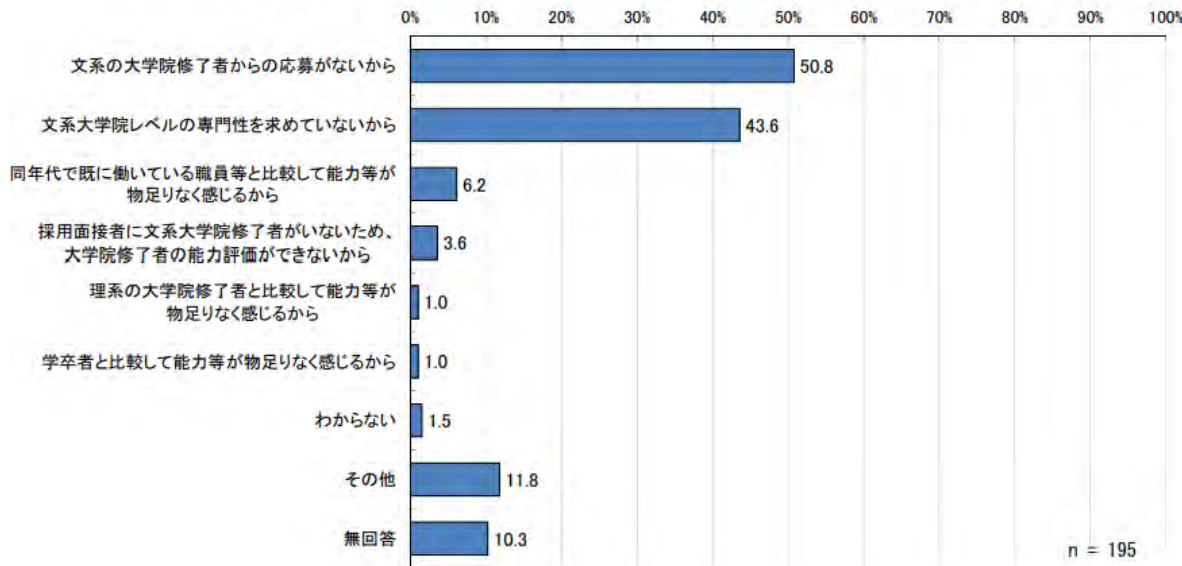
- 文系の博士課程の学生については0.8%、理系の博士課程の学生については 4.6%との回答結果。

※東証一部上場企業1,829社（会社四季報2014年4集掲載企業）を対象に調査。

【出典】平成26年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「人文社会系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態等に関する調査研究報告書」（平成27年、株式会社 浜銀総合研究所）

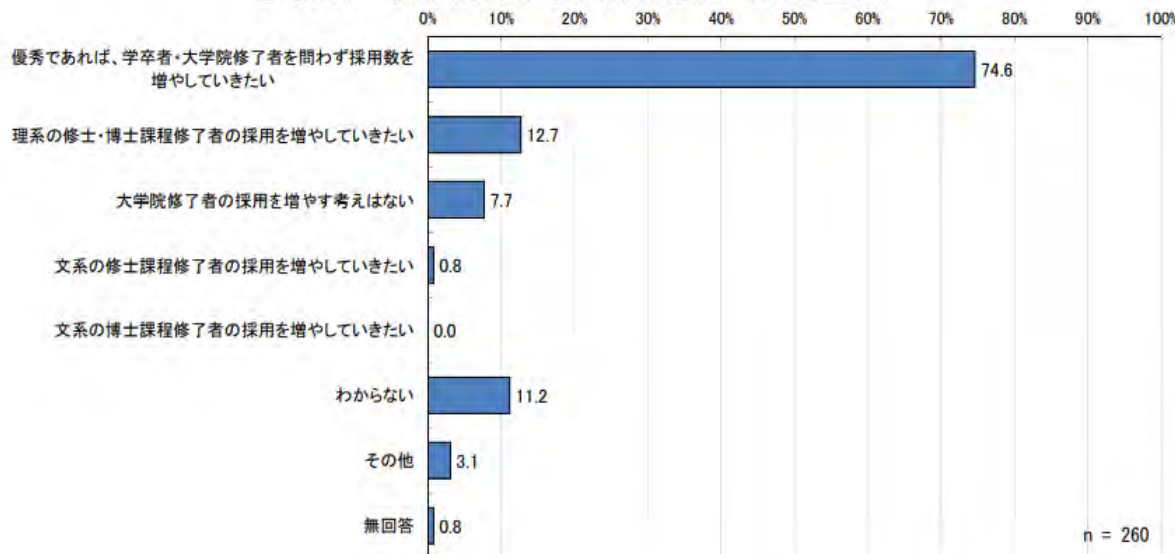
文系の大学院修了者の採用実績がない理由

図表 51 文系の大学院修了者の採用実績がない理由



- 文系の大学院修了者の採用実績がない企業について、その理由で最も多かったのは「文系の大学院修了者からの応募がないから」（50.8%）であり、次いで「文系大学院レベルの専門性を求めているから」（43.6%）となった。
- 一方、「理系の大学院修了者と比較して能力等が物足りなく感じるから」、「学卒者と比較して能力等が物足りなく感じるから」と回答した割合はそれぞれ1.0%であり、分野や学歴を理由に採用に至らないケースは少ないと考えられる。

図表 53 大学院修了者の採用意向（複数回答）

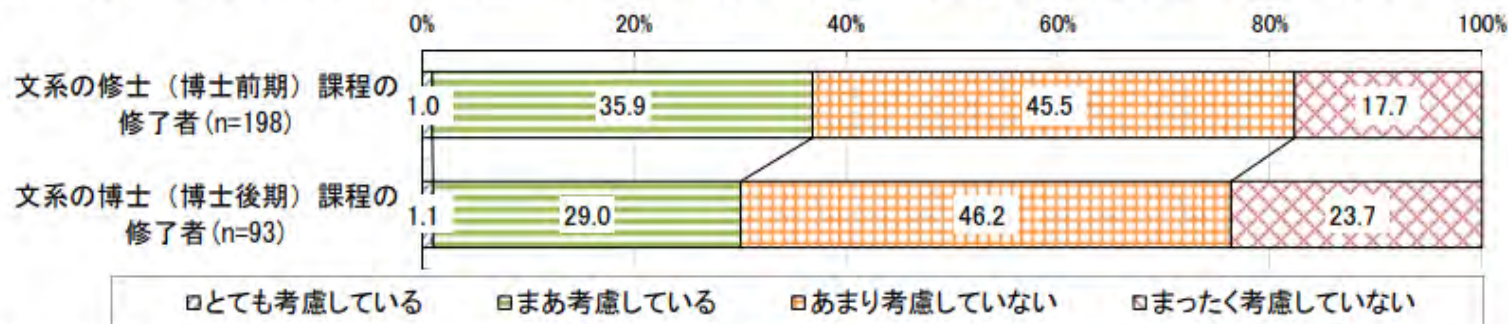


- 今後の大学院修了者の採用意向について「優秀であれば、学卒者・大学院修了者を問わず採用数を増やしていきたい」が74.6%と最も多い。
- 「理系の修士・博士課程修了者の採用を増やしていきたい」との回答が12.7%であったのに対し、「文系の修士課程修了者の採用を増やしていきたい」は0.8%、「文系の博士課程修了者の採用を増やしていきたい」は0.0%であり、文系の大学院修了者を意図的に増やしていこうとしている企業の割合は非常に少ない状況にある。

配属先と大学院で学んできたこととの関連性

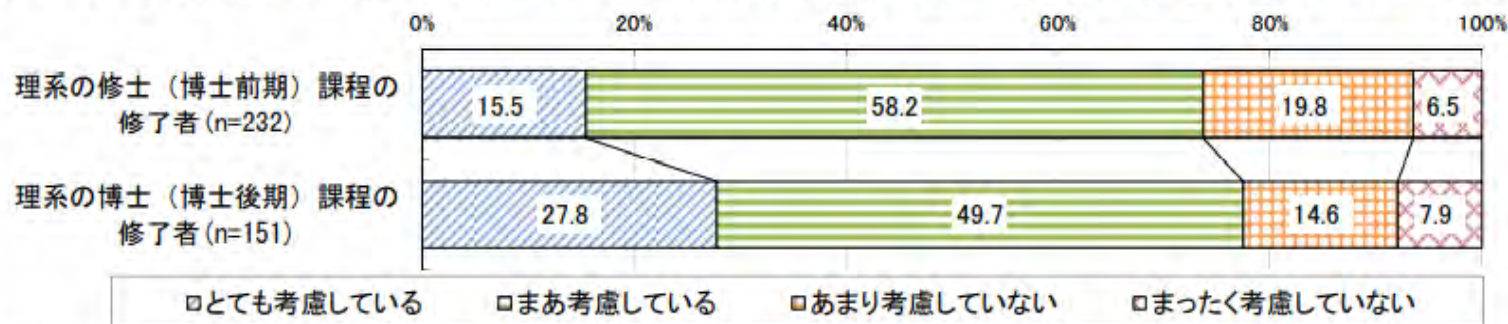
- 採用した大学院修了者の配属等で、大学院で学んできたことの専門性等を考慮しているかについてたずねたところ、理系の修了者の場合には、「とても考慮している」との回答が2割前後となっているのに対して、文系の修了者に関しては、「修士（博士前期）課程」「博士（博士後期）課程」のいずれについても、その割合は約1%となっている。
- 「あまり考慮していない」「まったく考慮していない」とする回答割合も、理系と比較して文系の場合には高くなっている。

図表 57 大学院修了者の配属等に関して学んできたことの専門性等を考慮するか（文系）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

図表 58 大学院修了者の配属等に関して学んできたことの専門性等を考慮するか（理系）

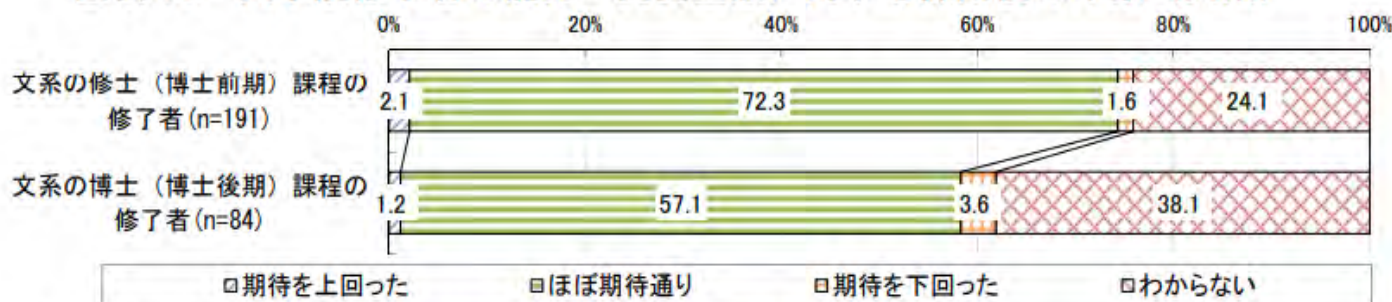


※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

採用後の印象

- 修了者の能力・資質全般について、採用後の印象をたずねたところ、文系については理系に比べて「わからない」との回答割合が高く、「期待を上回った」「期待を下回った」の回答割合が低い。
- 理系の修士・博士課程修了者及び文系の修士課程修了者は「期待を上回った」とする回答が「期待を下回った」よりも多いが、文系の博士課程修了者では「期待を下回った」とする回答の方が多い。

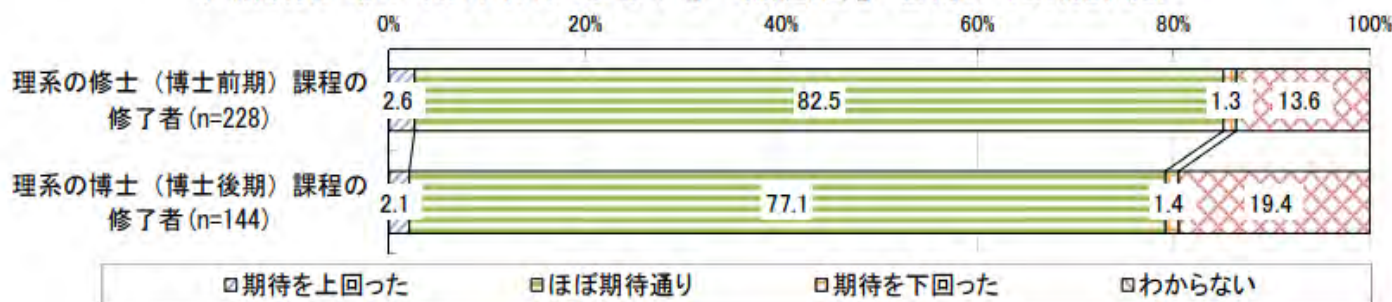
図表 59 大学院修了者の能力・資質全般に対する採用後の印象（文系）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

図表 60 大学院修了者の能力・資質全般に対する採用後の印象（理系）

（「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値）



※「採用がないためわからない」「無回答」を除いた集計値

研究科としての人材輩出の考え方と実際の進路状況（人文科学）

図表 62 平成 25 年度修了者の就職状況（「人文科学」の研究科、平均人数・内訳の割合）

	修士課程(n=129)		博士課程(n=86)	
A. 博士後期課程への進学者	3.25 人	17.3%		
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）	9.24 人	49.1%	2.10 人	41.7%
うち、大学教員・研究者	(0.16 人)	(0.9%)	(1.12 人)	(22.1%)
うち、民間企業等の研究者	(0.04 人)	(0.2%)	(0.07 人)	(1.4%)
うち、高度専門職業人※	(1.52 人)	(8.1%)	(0.13 人)	(2.5%)
うち、上記以外	(7.52 人)	(40.0%)	(0.79 人)	(15.7%)
C. その他	6.32 人	33.6%	2.94 人	58.3%

● 人文科学系の修士課程において、研究科が目指す人材輩出のポートフォリオは博士進学が23%であるのに対し、実際の進学者は17%、就職者は56%であるのに対して、実際の就職者は49%となっており、目標よりも「その他」の進路が多くなっている。

● 博士課程においては、研究科のポートフォリオと実際の進路のギャップが大きい。目標では54%が大学教員・研究者となるのに対し、実際は22%と少ない（目標に掲げるだけのポストを大学が準備できていない可能性）。また「民間」や「高度専門職業人」が目標よりも少なく、「その他」の進路が実際には非常に多い。

図表 65 専門分野別、どのような人材をどの程度輩出することを目指しているか（平均値）

	人文科学		社会科学	
	修士課程	博士課程	修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者	2.27 割		1.78 割	
B. 大学教員・研究者	0.77 割	5.44 割	0.66 割	5.08 割
C. 民間企業等の研究者	0.75 割	1.16 割	1.11 割	1.44 割
D. 高度専門職業人※	4.03 割	2.36 割	4.67 割	2.46 割
E. その他	2.32 割	1.30 割	1.92 割	0.99 割

【出典】平成26年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「人文社会系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態等に関する調査研究報告書」（平成27年、株式会社 浜銀総合研究所）

研究科としての人材輩出の考え方と実際の進路状況（社会科学）

図表 63 平成 25 年度修了者の就職状況（「社会科学」の研究科、平均人数・内訳の割合）

	修士課程(n=262)		博士課程(n=187)	
A. 博士後期課程への進学者	1.55 人	9.7%		
B. 就職者（学校基本調査における「就職者」と同じ）	8.84 人	55.3%	1.67 人	56.4%
うち、大学教員・研究者	(0.21 人)	(1.3%)	(1.06 人)	(35.8%)
うち、民間企業等の研究者	(0.46 人)	(2.9%)	(0.08 人)	(2.7%)
うち、高度専門職業人※	(1.23 人)	(7.7%)	(0.07 人)	(2.4%)
うち、上記以外	(6.95 人)	(43.3%)	(0.46 人)	(15.6%)
C. その他	5.60 人	35.0%	1.29 人	43.6%

● 社会科学系の修士課程において、研究科が目指す人材輩出のポートフォリオは博士進学が18%であるのに対し、実際の進学者は10%、就職者は64%であるのに対して、実際の就職者は55%となっており、目標よりも「その他」の進路が多くなっている。

● 博士課程においては、研究科のポートフォリオと実際の進路のギャップが大きい。目標では51%が大学教員・研究者となるのに対し、実際は36%と少ない（目標に掲げるだけのポストを大学が準備できていない可能性）。また「民間」や「高度専門職業人」が目標よりも少なく、「その他」の進路が実際には非常に多い。

図表 65 専門分野別、どのような人材をどの程度輩出することを目指しているか（平均値）

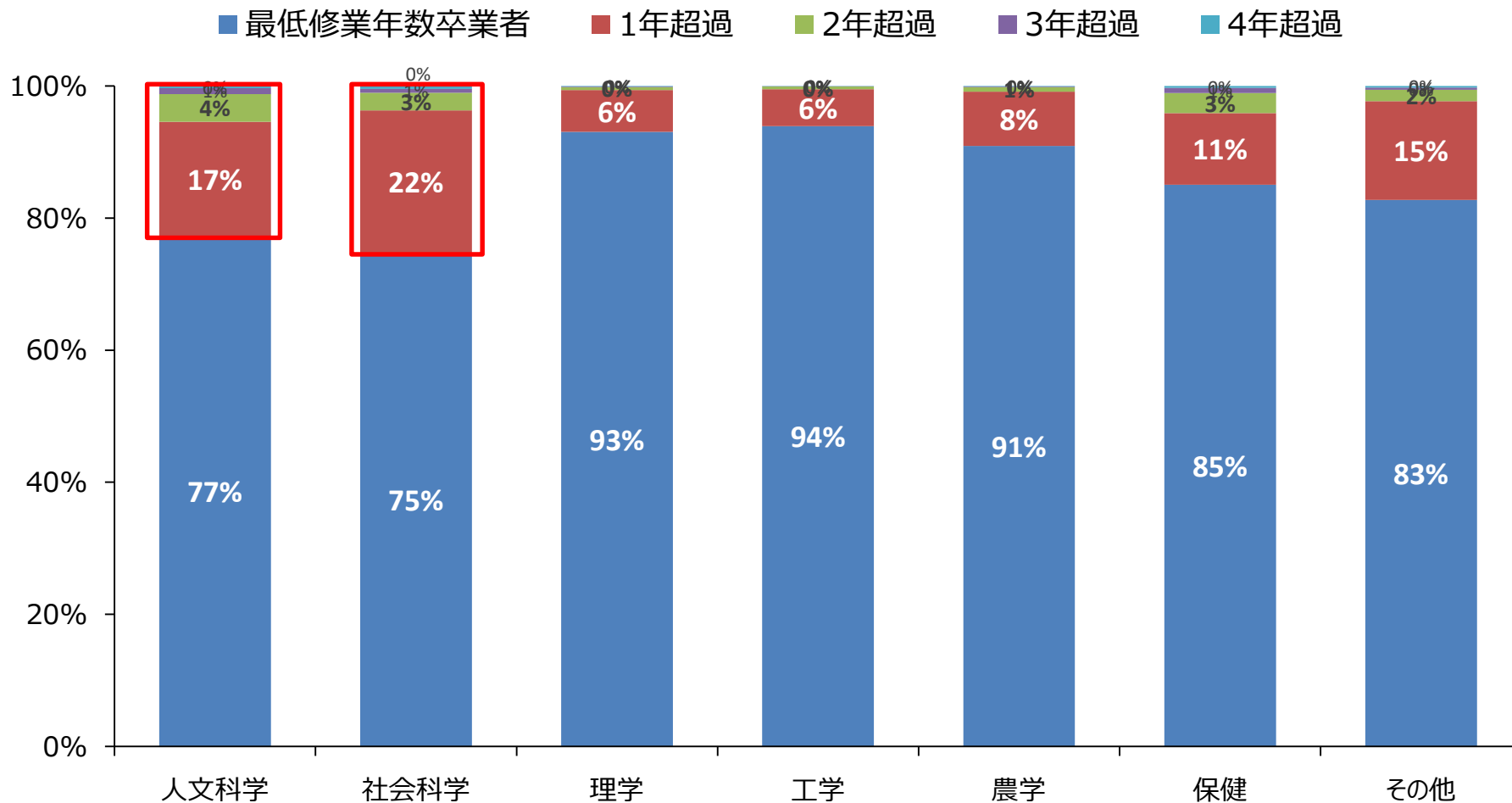
	人文科学		社会科学	
	修士課程	博士課程	修士課程	博士課程
A. 博士後期課程への進学者	2.27 割		1.78 割	
B. 大学教員・研究者	0.77 割	5.44 割	0.66 割	5.08 割
C. 民間企業等の研究者	0.75 割	1.16 割	1.11 割	1.44 割
D. 高度専門職業人※	4.03 割	2.36 割	4.67 割	2.46 割
E. その他	2.32 割	1.30 割	1.92 割	0.99 割

3. 学位取得までに要する期間

修士課程卒業者の修業年限超過率（平成30年度）

- 人文科学、社会科学分野の修士課程卒業者の修業年限超過率は約2割であり、他の分野と比較して超過率が高い

修士課程卒業者



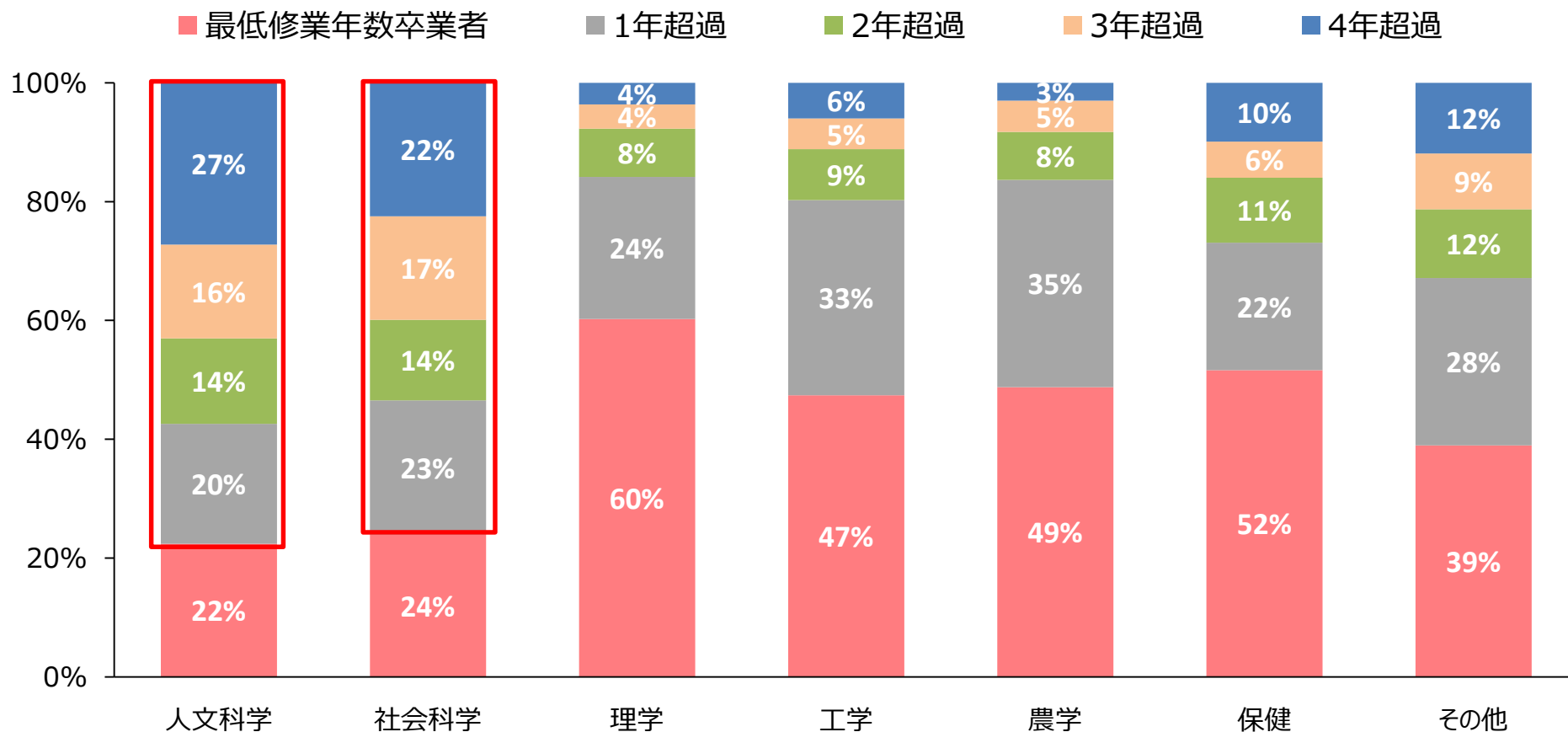
※「その他」には学科系統分類における「その他」の他、「教育」、「家政」、「芸術」、「商船」を含む。
※修士課程卒業者は、「その他（編入者）」を除いた値。

出典：令和2年度学校基本調査

博士課程卒業者の修業年限超過率（平成30年度）

- 人文科学、社会科学分野の博士課程卒業者（満期退学者を含む）の修業年限超過率は約8割であり、他の分野と比較して超過率が高い

博士課程卒業者



※博士課程卒業者は満期退学者を含んだ値。

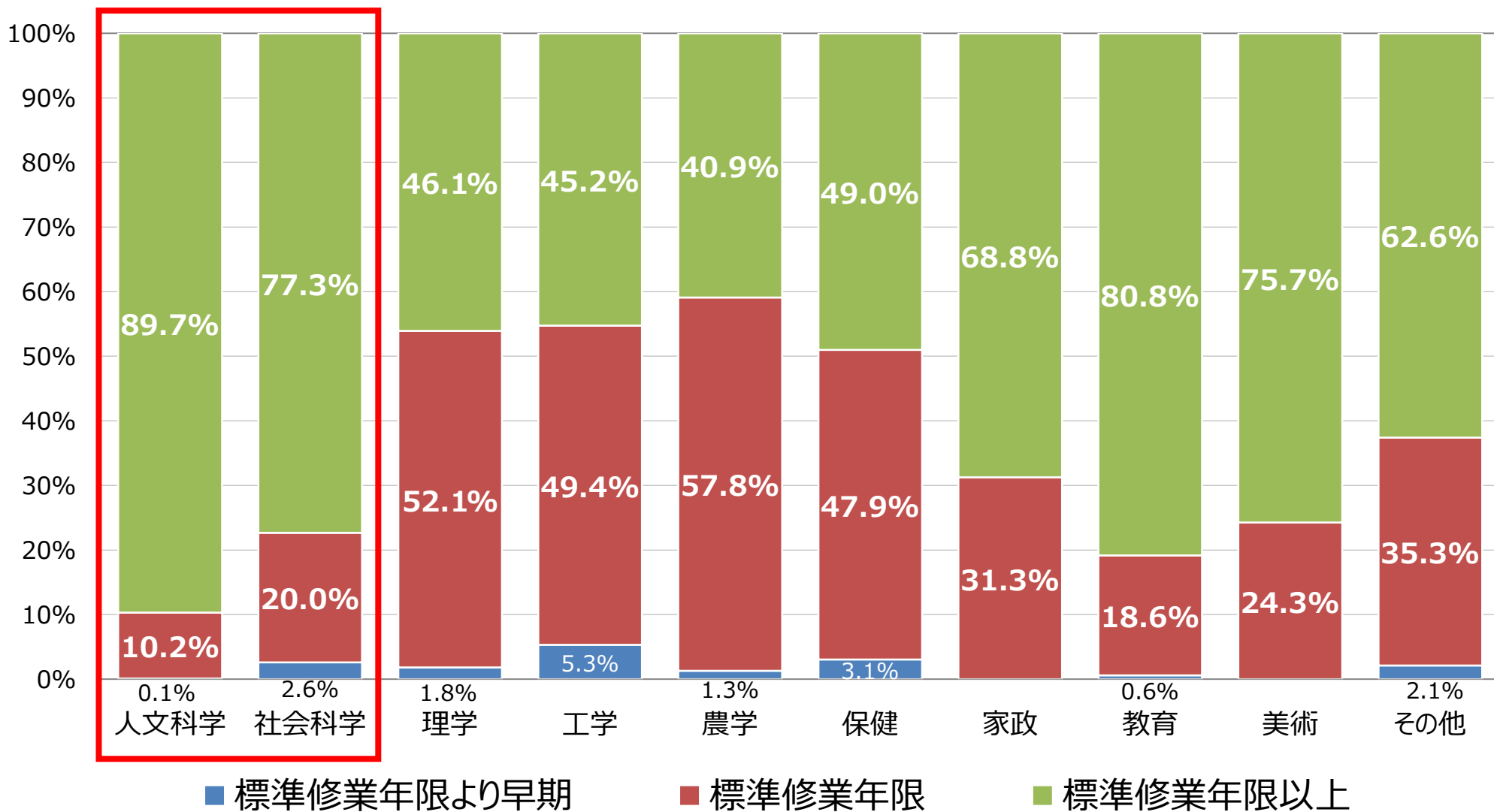
※「その他」には学科系統分類における「その他」の他、「教育」、「家政」、「芸術」、「商船」を含む。

※修士課程卒業者は、「その他（編入者）」を除いた値。

出典：令和2年度学校基本調査

博士課程の標準修業年限超過割合（令和2年度実績）

- 令和4年度に公表された最新の調査においても、人文科学・社会科学系の博士修了者の標準修業年限超過割合は極めて高く、人文科学系においては約9割が標準修業年限を超過している



※長期履修制度の利用者を除いた値

【出典】令和3年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング、令和4年）